

平成30年7月豪雨災害における緊急消防援助隊大阪府大隊活動概要



広島県豪雨災害に 派遣されて

第5次派遣 後方支援隊
大阪市消防局 警防課
情報システム担当
消防司令補 中瀬古 大樹

私は今回大阪府隊緊急消防援助隊(第5次派遣)の後方支援隊として緊急車の燃料補給作業、現場活動隊員に対するの食糧及び飲料水の補給。宿営地の設営及び清掃作業等の活動を行いました。

私自身2度目の緊急消防援助隊としての活動でしたが、後方支援任務は今回が初めてで至らぬ点もあり非常に悔しい思いをしましたが、現場で活動する隊員のためよりよいバックアップ体制を築くため府下の本部の方々と協力し、最終的にはとてもスムーズな活動が出来たと考えております。

個人的には任務の合間を縫って広島県消防学校の生徒の方、付近に住んでいる住民の方と協力して学校周辺道路の土砂の撤去を行ったことが印象的です。生徒の中には自身も被害をうけた人もいらしたそうですが、そのようなことを感じさせず必死に土砂を撤去する姿は、既にプロの消防士の顔だったことは忘れられません。



つなげる

第2次派遣 統合機動部隊(消火)
大阪市消防局 生野消防署
警防担当
消防司令補 乾 宏史

私は統合機動部隊消火小隊小隊長として、広島県広島市において消防活動に従事した。

派遣先となった活動場所の指揮本部で、子どもが土砂に流された状況を涙を堪えながら説明をしている母親の姿を見て、「絶対に助け出す」という強い思いが胸にこみ上げた。

しかし、現場は大規模な土砂崩れにより、家は基礎から流れ、辺り一帯は土砂が堆積しており、手持ちのシャベルで土砂の除去を繰り返すも、活動時間内に除去できた土砂は微々たる量であった。結局、要救助者を発見できないまま現場を移動することとなった。

移動先の現場では、要救助者を発見救出するも既に亡くられており、母親が亡くられた娘さんの顔を確認した瞬間に泣き崩れる姿を見て、無力さを強く感じた。

今回の我々の活動が、どれだけ広島の方の力になれたかはわからない。しかし、無力さにくじけず、挑み続け、消防人として成長し続けたい。一人でも多くの命を救えるように。